

令和7年4月1日

令和7年度 保土ヶ谷支援学校 1年間の目標

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	①自立と社会参加を目指し、一人ひとりの確かな学びを支える教育課程を編成する。	①児童・生徒が自立と社会参加を意識し、身につけたい力について学べる教育内容の充実を図る。 ②交通安全や防災教育、人権教育といった「いのちを守る」教育を学校生活全般で実践する。	①学びの連続性を踏まえた年間授業計画をいかし、情報機器を効果的に活用した授業実践を推進する。 ②発達段階に応じて内容・場面を工夫し、各学部で「いのちを守る」観点で指導を進める。	①「身につけたい力」の育成に向け、実態に応じた授業を実践できたか。 ②「いのちを守る」指導を実践し、必要な知識・技能を育成できたか。
	②児童・生徒のいのちを守る教育を推進する。			
2 児童生徒 指導・支援	①アセスメントを踏まえた児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援を組織的に実践する。	①アセスメントを授業づくりに反映し、系統性を踏まえた授業改善を推進する。	①標準検査や日常場面における行動観察の情報をもとに、校内研究をいかした指導を行う。	①アセスメント結果を授業づくりに反映し、授業改善を実践できたか。
3 進路指導・支援	①障害のある児童・生徒及び関係者が将来の社会生活に見通しを持てるようにするとともに、本人参加による進路選択の実現に向けた進路指導・支援を行う。	①児童・生徒一人ひとりの進路支援に向けて、教員の知識の向上を図る。 ②校内や地域に向けた卒業後の進路や地域生活に関する情報発信の充実を図る。	①教員対象の研修(学習会や見学会)を実施する。 ②学校運営協議会の切れ目ない支援部会とも連携し、地域と共に学ぶ機会を設定する。	①学部等の実態に即した研修会(学習会や見学会)を実施し、進路支援に対する教員の知識・理解が深まったか。 ②福祉や進路に関する情報を校内および地域の方へ発信し、一定の評価を得られたか。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		
			具体的な方策	評価の観点	
4	地域等との協働	①共生社会の実現を目指し、地域と連携し、地域の支援を充実させるとともに、地域と連携した学校づくりを推進する。	①特別支援教育のノウハウを地域へ発信するとともに、地域を支援する校内人材の育成を図る。 ②交流学習や地域との協働活動を進める。	①センター的機能をいかし、教材教具や支援の手立て等に関する情報を巡回相談やホームページ、研修会等を通じて発信していく。 ②地域との連携・協働を進めるために、各学部・分教室で色々な形での交流学習に取り組む。	①地域との連携や協働を通じて、校内の人材育成を図ることができたか。 ②地域に向けて情報を提供し、一定の評価を得ることができたか。 ③交流学習および地域との協働活動により地域との連携を進めることができたか。
		①安全な環境を整備し、安心して学ぶことができる学校づくりを推進する。 ②教職員が児童・生徒と向き合う時間を確保するため、職員の働き方改革を推進する。	①教育環境を計画的に改善し安全を確保する。 ②教職員の人権意識の向上を図る。 ③業務の整理や効率的な業務の遂行方法等を検討し、働き方改革を進める。	①教育環境の整備を進め、安全上必要な対策について職員間で共有する。 ②不祥事防止研修や人権研修等を実施し、学部ごとにテーマを設定し話し合う機会を持つ。 ③前年度の実績を踏まえ、各学部・グループで業務の見直しを進める。	①教育環境の整備や改善を図ることができたか。 ②研修会実施後、学部ごとにテーマを設定し取り組めたか。 ③各学部・グループで業務の見直しに取り組み、効率化を進めることができたか。